



八尾市市民後見人 活動記録集



リモートでも届く想い

Eさま

平成28年度バンク登録【第2期生】
受任期間：平成28年10月～平成30年11月

「市民後見人」活動記録

E 著

1. 市民後見人養成講座の受講の動機

2003 年にホームヘルパー・ガイドヘルパーになり、障がいを持つ方々の生活介助をしている中で、年数がたち自分も 60 歳を越え、利用者さんのお父さん、お母さんが亡くなる・・・そういう出来事に会うようになりました。障がいを抱えた息子さん、娘さんのことを御両親は心配だろうな・・・と想像し、後見活動のことを知ろうと思い、大阪市の取組みと実績を知りました。2014 年、八尾の一期生の一人でした。



2. ご本人の概要（居所・状態）

被後見人 A さんは長年海外でエンジニアとして仕事をされていましたが、関東に住むご家族とは疎遠の単身暮らしだった様です。60 歳を過ぎてから血管性認知症を発症され、滞在ビザの更新もできなくなり、親族の保護も得られず、帰国。八尾の病院に入院となりました。病状が安定してくると、病院の相談機関は「年金収入もあるので後見人をつけて施設で暮らしていけるのではないかと、市に相談され、市長申立てとなりました。

私が後見人を 2018 年 11 月に受任、面会に伺うと、廊下を一人で歩き、トイレにも行けるが、発語は殆んどなく、認知機能の低下も続いていました。

翌年、がんが見つかり、摘出手術を受けて、車いす生活となり要介護 5 と認定されましたが、術後安定したので 2019 年 10 月に特別養護老人ホームへ入所できました。

食事は自分でされますが、尿器はストマをつけ、穏やかに暮らし始めました。



3. 活動の内容

特養に入って4ヶ月、少し落ち着かれたかな？と思うころ、2020年2月コロナ感染予防のため、面会が全面禁止に。6月のリモート面会開始までは、施設利用料を届けて、相談員さんに生活のようすをそつとたずねるだけでした。

膀胱がんの術後は半年に一回、CTなど精密検査と2週後に主治医診断があり、施設から総合病院へ通います。この病院同行だけが、横に座って直接声をかけ、同行の看護師を交えて3人でゆっくり、Aさんの反応を見ながら話せました。うれしかったです。

タブレットを使ったリモート面会で特養3階の居室のAさんと、私は1階事務所前。ソファで様子をうかがう10分間は・・・どうも落ち着きません。画面上からの私の声かけにも目をつむっているAさんの様子。介助スタッフが見かねて、「ホラ、〇〇見せてはるよ！」と隣から声をかけてくれると、“食べ物”“興味のある話題”には、フツと目をあけるのです。

Aさんは今年2022年6月13日朝、急性肺炎で救急搬送され、一週間後亡くなりました。

つまり2018年11月～2022年6月までの3年8か月の成年後見人受任中、2年5か月間は直接会えないリモート面会の後見活動でした。

どうしたらAさんが喜ぶか?? 作戦を練りました。

☆作戦 1 絵本は？「かがくのとも」は使えないか？

タブレット画面上でのやり取りが難しいなら、介護スタッフと遊んでくれないかな？

家にあった絵本を持参して、画面上から「読み聞かせ」。でも A さんの反応はもうひとつ、目をつむったまま。・・・それなら科学絵本の「魚市場」ならお魚がいっぱい描かれているから「このサンマおいしそう」とか「マグロは大きいね」等、膝の上で語りかけてくれれば、目を開けて、おどろいたり、思い出して遊べるかな？ そんな願い事を託しました。

☆作戦 2 「昭和のマンガ」なら手に取ってくれるかな？

そう思いついて、古本屋でさがして見つけたのが、長谷川町子「サザエさん」。反応は聞いていませんが、裏に A と名前が書かれた文庫本が遺品として施設から返ってきました。

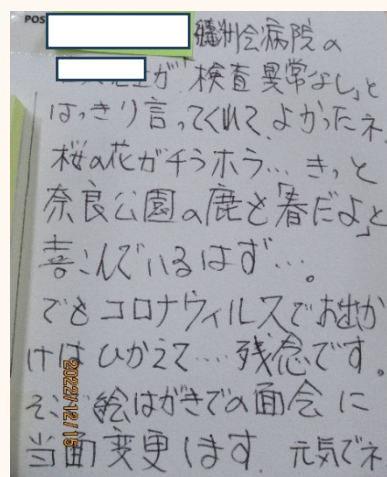
☆作戦 3 居室で介助スタッフと話題にして楽しめるものはないか？ そうだ、

絵はがき。

私にとって簡単なのは、故郷に住む兄・姉・妹に季節に送る絵はがきの残り物を使うことでした。リモートの面会は月一回でも、あの時に話したかったことを書いてみよう。季節のあいさつ、関西のお祭り、伝統行事……。はがきを読んだ介助スタッフが声かけして、会話が弾み、窓から信貴山の山並みを見たり、咲

き始めた草花を楽しむきっかけにならないか？ 花火は？ 奈良の鹿は？ ホタル
や柏原のブドウだって、会話のきっかけになるはず…。

▽本人への絵はがき



☆作戦 4 リモート面会で「Aさんは甘いもの好きなんですよ」とヒントをもらいま
した。

それまでにも私が故郷へ帰省して、金沢のお菓子を数個お土産として届けた
ことはあったのですが。…ああ、それなら近くのスーパーで買って行ってあげよう。
スタッフが教えてくれたヒントで、日ごろ楽しむチョコや“子どものおやつ”が面会のお
みやげに（一回千円以内）。…すると、翌月の面会で「あの豆菓子はか
たくて食べにくい」等とアドバイスをくれ、次のおみやげ選びに助かりました。

横に座って声をかけられなくても、色んな作戦を考え、やってみた 2 年 5 カ月で
した。



4. やりがいを含めた感想

後見活動をして良かった・・・と私が思うこと（遺族の思いとの重なり）

今年6月にAさんが亡くなり、葬儀・火葬をどうしようか？となった時、親族とのつなぎ役を重ねてくれていた市社協のスタッフに、「父の顔が見たい」と連絡が入った時の事です。

遺族4人だけのお通夜。遺体の横で「お母さんのふるさと・新潟に毎年暮れに行ってお正月まで過ごした。雪を数日楽しんでから、関東の家にみんな帰って、お正月になるんです」と語る思い出話を聞きました。あれ！この年末景色を俺は知ってるぞ。昭和30年代に新潟県で小学生時代を過ごした私の記憶と重なったのです。そうだ、Aさんの奥さんは新潟県の方だったのだ。あのころ出稼ぎで東京へ行っていたおじさん達が暮にバスで帰省する姿を思い出したのです。

そうだ俺は「新潟県人として動けたんだ」良かった！そう思えた骨拾いの朝でした。

その時、この活動をして良かったと思えたのです。

5. これからバンク登録を考えている方に・・・感じてほしいこと

最初、Aさんが『海外で認知症になり、強制帰国・入院した』・・・と聞いた時、「こんなきびしい体験をしている方もいるのか!」と思ったのですが、お付き合いして色々なことを知っていくと、気づいたのです。

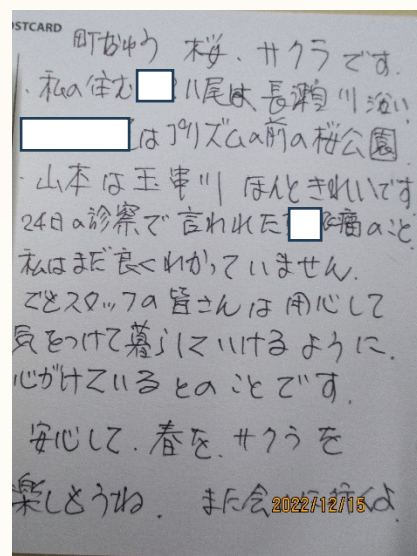
私は4人兄弟で、妻の弟を含めると親族の甥や姪は14人。みんなバリバリ仕事中。その中で3年から5年以上海外生活を経験しているのは3人も。『あ! 他人事ではないな』。

国際化していく日本で、これからは私の身近でも起きることなんだ・・・。そうなのです。

見えていないこと、でも支え合って行きましょうね。



▽本人への絵はがき





社協職員よりひとこと

二度目の受任。被後見人が施設に入所して間もなく、
コロナの影響で思うように面会もできず、様々な制限がつづく中、
日々被後見人のためにできることを考え、
試行錯誤しながら活動されていたEさん。
Eさんの思い・優しさが溢れる活動を通して、
常に被後見人に寄り添っておられました。
これからも地域の活動の中で、どうぞよろしく申し上げます。

